

病院に入院した時に、管理栄養士と話をされたことはありますか？栄養食事指導を受けておられる患者様でない限り、管理栄養士と話をしたことがない方がほとんどではないでしょうか。  
栄養管理はすべての治療に共通する最も基本的な医療です。適切



徳島大学病院 栄養部・管理栄養士  
小笠 有加さん

な栄養管理ができていなければ、いかなる治療法も最大限の効果を得られません。しかし、残念なことに入院された患者様の中には、入院前から食事を食べることができなくなっていたり、食事を食べることができないが体重が減ってしまっていたりなど、すでに低栄養状態に陥っている方がおられます。

入院後もそれは変わらず、栄養状態が徐々に悪化することもしばしばあります。このような患者様を入院時にいち早く見つけ出し、早期から栄養状態の改善を図ることを目的に、徳島大学病院では2017年4月から「栄養スクリー

ーニング」という新しい取り組みを始めました。入院翌日に患者様のベッドサイドへ管理栄養士が直接伺い、自宅での食事摂取状況や体重変化・飲み込みにくさなどについて聞き取りを行っています。

## ご存知ですか？栄養スクリーニング

幅広い年代の患者様が入院されるため、聞き取り内容はそれぞれの問題点が抽出しやすいよう、「成人(18歳以上)」「妊婦」「小児」に分類しています。聞き取った内容から、入院時にはすでに栄養状態が低下している場合や、今後の治療によって栄養状態の変化が予測される場合などは、必要に応じて病棟担当管理栄養士が食事調整を行ったり、栄養サポートチームによる栄養管理へつなげていきます。

また、栄養食事指導が必要と考えられる患者様には、担当管理栄養士から主治医に提案し、なるべく入院中に指導を受けていただいています。

栄養スクリーニングはまだ始めたばかりの新しい取り組みです。今後も、栄養スクリーニングが最適な栄養管理と栄養指導のきっかけになるよう、試行錯誤しながら努めていきたいと思えます。